

# BOUYGUES

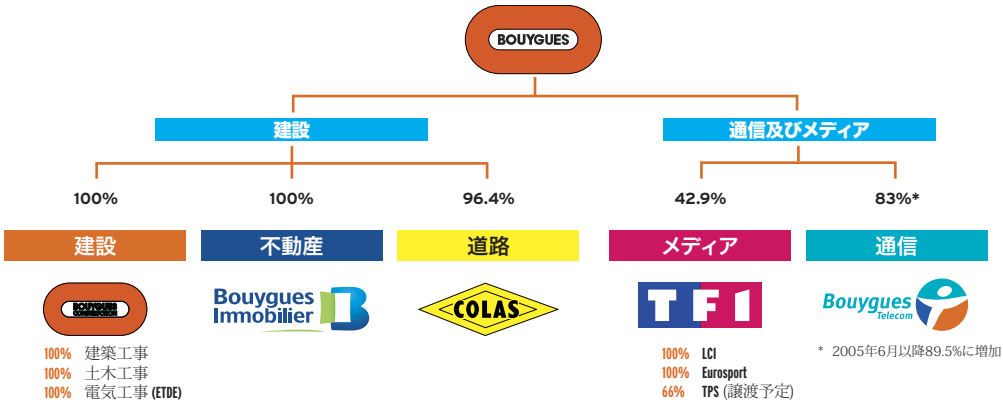
2006年3月

# 2005年度



ブ イ グ 事 業 概 要

# グループ簡易組織図 2006年2月15日現在



## グループ経営陣

### ブイグ本社

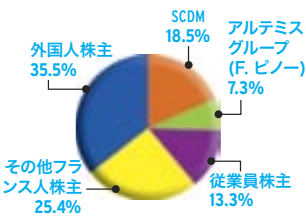
マルタン・ブイグ	会長兼CEO
オリヴィエ・フバル＝ラファルジュ	CEO代行
オリヴィエ・ブイグ	CEO代行
アラン・ブヤ	エグゼクティブVP(情報及びニューテクノロジー担当)
ジャン＝クロード・トスティヴァン	シニアVP(人事及び総務担当)
リオネル・ヴェルドック	シニアVP(資金管理及び財務担当)
ジャン＝フランソワ・ギユマン	事務本部長

### 5事業部門トップマネジメント

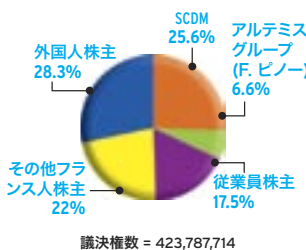
イヴ・ガブリエル	ブイグ・コンストラクション会長兼CEO
フランソワ・ベルティエール	ブイグ・イモビリエ会長兼CEO
アラン・デュボン	コラス会長兼CEO
パトリック・ルレ	TF1会長兼CEO
フィリップ・モンタニエ	ブイグ・テレコム会長兼CEO

## 株主構成(2006年2月15日現在)

### 出資比率



### 議決権



SCDM社はマルタン・ブイグ会長とオリヴィエ・ブイグCEO代行が支配下に置いている会社です。同社はフランソワ・ビノー氏が率いるアルテミス(Artemis)グループと株主協定を結んでいます。  
\* 2006年2月AMF(金融市場監督局)に情報開示

## ブイグの強み

- 強力な企業文化が全事業部門に浸透。
- 有望分野に堅固な足場を築いたグループ多角化。
- フリーキャッシュフローの大きな創出力。
- 磐石な財務構成と大きな投資能力。

## 2005年度のハイライト

- 文句なしの株価推移。
- 建設部門で売上と利益が大幅増進し新規受注額も記録的水準。
- 1株当たり5ユーロの特別配当(総額17億ユーロ)を実施。
- ブイグ・テレコムに対するコミットを強化。
- ブイグ・テレコムがEDGE全国ネットワークによるブロードバンド携帯電話サービス開始。
- TF1、M6、Vivendi Universalの3社が有料TV部門で統合協定を締結。
- 15年社債を7億5000万ユーロから10億ユーロに増額発行。

# 目覚しい2005年度業績



ブイググループは2005年度も目覚しい営業成績を挙げました。全ての経営指標が2004年度を大幅に上回ったのです。たとえば、特別項目を除いた本来の純利益が前年度比19%増となる一方、投下資本利益率も2004年度の12.7%から16.5%に上昇しました。

ブイグの業績は長期的な上昇トレンドに乗っています。売上高は2001年度比18%増、営業利益は同2倍、純利益に至っては同3倍にもなりました。ここにはブイグの長期ビジョンの妥当性が反映されているのです。

建設会社ブイグ・コンストラクション (Bouygues Construction) は特に輝かし成果を挙げ、新規受注額と利益の両面で申し分ない結果を出しました。

不動産会社ブイグ・イモビリエ (Bouygues Immobilier) も利幅をさらに改善して、住宅分野で著しく堅調な売上を記録しました。

道路施工会社コラス (Colas) は世界的トップ企業として躍進を続け、今年も過去最高を更新して国際市場における強固なポジションを一層揺るぎないものにしました。

メディアグループのTF1はフランス総合テレビ局として不動の地位を誇っています。この点は高い視聴率が雄弁に物語っています。確かに広告分野は厳しい状況に

あるものの、総合的には売上と利益ともに堅調を維持しました。TPSの統合案の成立後は、コンテンツプロバイダーとしてのコアビジネスに再注力しています。

移動体通信会社ブイグ・テレコム (Bouygues Telecom) は過去10年間の事業展開を経てユーザー数を800万人の大台に乗せました (うち140万人がモードのユーザー)。ブロードバンドに関する戦略オプションが最適だったことが実証されたのです。当社は先ずEDGEテクノロジーを展開し、続いてUMTSの次世代技術であるHSDPAを推進する戦略を採っています。かくして、2005年度はモードの高速大容量サービスを全国のお客様に提供開始できました。このサービスは優れたクオリティを誇り、誰でもが気軽に利用できる料金設定になっています。

スタッフの貯蓄奨励策を一層充実させるため、従業員に対する割当増資を新たに実施しました。この結果、ブイグ従業員は合計13.3%の出資比率と17.5%の議決権を持つ第2位株主となりました。

普通配当を前年度比20%増加させました。ブイグ取締役会は、2006年4月27日開催の株主総会において普通配当を1株0.90ユーロとするように提案させていただき所存です。

ブイグは長期的な視点に立った強力な企業文化を誇っています。ブイググループは人と環境の尊重を礎にしつつ顧客満足を目指す社風を持っています。お約束したことは責任を持って履行し、創造的なビジネス提案をためらわず、しかも慎重な経営判断を心がける真の起業家の姿がそこに表現されているのです。この企業文化は「持続可能な発展」という社是にしっかりと結実しているのです。

2006年度業績についても明るい見通しを持っており、ブイグはフランス国内での8000名を含めて合計1万4000人の新規採用を行う予定です。

最後に、株主各位のご信頼に対して心よりお礼申し上げるとともに、意欲的に仕事に取り組んでおられる全スタッフに深謝いたします。ブイググループの現在と将来の成功はひとえに皆様からのご支援とご協力にかかっているのです。

2006年2月28日

会長兼CEO マルタン・ブイグ

売上高

240億7300万ユーロ (15%増)

営業利益

17億4800万ユーロ (12%増)

連結純利益

8億3200万ユーロ (19%増)\*

\* 2004年度におけるソール (Saur) 売却キャッシュゲインを除く

負債比率

42%

キャッシュフロー

30億9000万ユーロ (14%増)

1株当たり正味配当

0.90ユーロ\* (20%増)

\* 2006年4月27日の年次株主総会で提案予定

# 大幅な採算性の向上

**フィググループ**は2005年度も注目すべき売上高と利益を記録しました。とりわけ建設関連では営業実績と新規受注が大きく伸びました。2004年における携帯電話事業者間料金精算分を含めた場合、グループ全体の売上高は前年度比15%増、既存基準では同11%増となりました。営業利益は同12%増となり、水処理関連会社ソーラ(Saur)の売却益を除いた本来の純利益は19%増となりました。投下資本利益率は2003年度の8.6%や2004年度の12.7%を大幅に上回る16.5%を記録しました。フィグの財務構成は堅固であり、2005年12月31日現在の負債額は23億5200万ユーロ、負債比率は42%にとどまっています。それゆえフィグは、格付け機関スタンダード&プアーズから「A-」(アウトルックは「安定的」)の格付けを得ています。キャッシュフロー(純利益及び減価償却費等)は30億9000万ユーロと前年度比14%増になりました。フリーキャッシュフローのほうは11億400万ユーロと前年度比10%増になりました。

## 連結貸借対照表(12月31日現在)

資産の部(単位100万ユーロ IFRS基準)	2004	2005
・有形及び無形固定資産	5,649	5,671
・営業権	4,540	4,618
・非流動金融資産	1,292	1,155
<b>非流動資産</b>	<b>11,481</b>	<b>11,444</b>
・各種流動資産	9,207	9,375
・現金及び現金同等物	3,260	3,215
<b>流動資産</b>	<b>12,467</b>	<b>12,590</b>
・譲渡事業資産	-	564
<b>資産合計</b>	<b>23,948</b>	<b>24,598</b>
負債及び資本の部(単位100万ユーロ IFRS基準)	2004	2005
・連結自己資本	3,998	4,630
・少数株主持分	980	931
<b>自己資本等合計</b>	<b>4,978</b>	<b>5,561</b>
・長期金融債務	4,648	4,721
・非流動性引当金	1,176	1,265
・その他非流動債務	158	89
<b>非流動負債</b>	<b>5,982</b>	<b>6,075</b>
<b>自己資本等及び非流動負債合計</b>	<b>10,960</b>	<b>11,636</b>
・1年以内金融債務	242	694
・各種流動負債	12,494	11,740
・短期銀行借入等	252	178
<b>流動負債</b>	<b>12,988</b>	<b>12,612</b>
・譲渡事業負債	-	350
<b>負債及び資本合計</b>	<b>23,948</b>	<b>24,598</b>
・正味金融債務	1,875	2,352

## 連結損益計算書

(単位100万ユーロ IFRS基準)	2004	2005
<b>売上高</b>	<b>20,894</b>	<b>24,073</b>
<b>調整前営業利益</b>	<b>1,557</b>	<b>1,852</b>
・その他営業収支	-	(104)
<b>営業利益</b>	<b>1,557</b>	<b>1,748</b>
<b>利息等収支</b>	<b>(159)</b>	<b>(187)</b>
・その他金融収支	(30)	(29)
・所得税	(501)	(570)
・関連会社純損益分	37	62
<b>調整前純利益</b>	<b>904</b>	<b>1,024</b>
・中断又は譲渡事業損益	211	14
<b>少数株主持分控除前純利益</b>	<b>1,115</b>	<b>1,038</b>
・少数株主持分	(206)	(206)
<b>連結当期純利益</b>	<b>909</b>	<b>832</b>

## 連結キャッシュフロー計算書

(単位100万ユーロ IFRS基準)	2004	2005
<b>営業キャッシュフロー</b>		
・当期純利益及び減価償却等	2,714	3,090
・運転資金の増減及び税支出	35	(511)
<b>A - 営業活動によるキャッシュフロー</b>	<b>2,749</b>	<b>2,579</b>
<b>投資キャッシュフロー</b>		
・投資活動支出	(1,047)	(1,229)
・その他投資関連	(90)	688
<b>B - 投資活動によるキャッシュフロー</b>	<b>(1,137)</b>	<b>(541)</b>
<b>財務キャッシュフロー</b>		
・当期配当金支払	(258)	(2,004)
・その他財務関連	(581)	(93)
<b>C - 財務活動によるキャッシュフロー</b>	<b>(839)</b>	<b>(2,097)</b>
<b>D - 現金及び現金同等物に係わる換算差額</b>	<b>(15)</b>	<b>31</b>
<b>現金及び現金同等物の増減額 (A + B + C + D)</b>	<b>758</b>	<b>29</b>
・現金及び現金同等物の期首残高	2,250	3,008
・現金及び現金同等物の期末残高	3,008	3,037

# 主要指標

(単位100万ユーロ IFRS基準)

売上高  
(15%増)

営業利益  
(12%増)

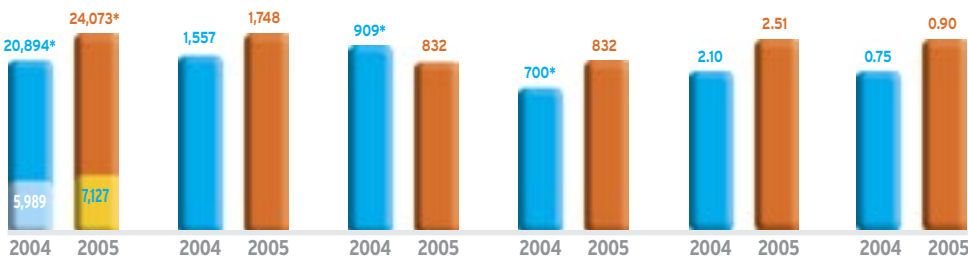
純利益  
(8%減)

本来の純利益  
(19%増)

本来の1株  
当り利益  
(20%増)

1株当り正味配  
当金(20%増)

■ うち国際事業分



\*2005年12月末現在 譲渡予定のTPSを除く。

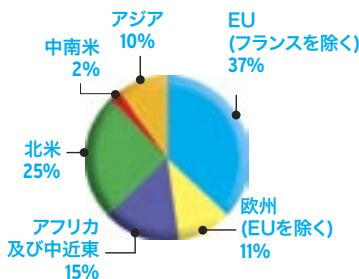
\*ソール(Saur)売却益 2億900万ユーロを含む。

\*ソール(Saur)売却益を除く。

\*ユーロ建て。2006年4月27日の年次株主総会で提案予定。

正味事業投資額  
(17%増)

国際事業売上高 71億  
2700万ユーロ



株価推移

2005年にCAC40種で第9位

2006年2月16日現在



■ BPI株価 ■ BPI株価+5ユーロ再投資分 ■ CAC

2005年12月末

現在の従業員総数

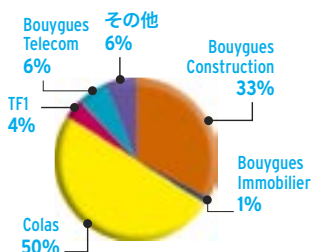
11万5441人

(2%増)

うち6万5350人

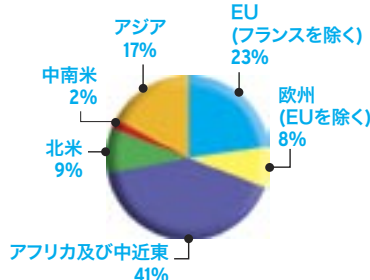
がフランス国内  
(全体の57%)

従業員の事業部門別内訳



従業員の地域別内訳

フランス国外従業員は5万91人



# 各事業部門の貢献

2005年度における**ブイググループ**の連結売上高は**241億ユーロ**と、前年度比**15%増**を記録しました(既存基準では**11%増**)。

**ブイグ・コンストラクション(Bouygues Construction)**の売上高は**同11%増**となり(フランス国内は13%増、国外は9%増)、あらゆる事業分野で引き続き堅調を維持しています。

**ブイグ・イモビリエ(Bouygues Immobilier)**の売上高は**同20%増**となりましたが、これは2004年度中に受け付けた大きな住宅予約分が実売されたためです。

**コラス(Colas)**も**同19%増**の売上高を記録し、特に中欧を中心とする国

外事業が好調でした。為替変動を除いた既存基準によると売上高の伸びは**同11%増**となります(フランス国内は7%増、国外は16%増)。全分野において相変わらず新規受注にかげりは見られません。

**TF1の売上は横ばいでした**。TF1の正味広告収入は第4四半期に前年度比3%上昇したおかげで、総合的には2004年度と同レベルを維持しました。その他の事業も通年では横ばいでした。

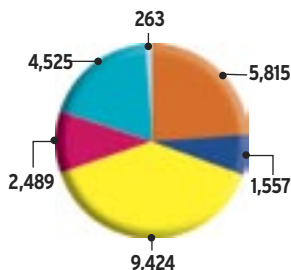
**ブイグ・テレコム(Bouygues Telecom)**の売上高は**45億ユーロ**と、前年度よりも**24%アップ**しました(既存基準では3%増)。正味の通信事業売上高は**42億ユーロ**と、前年度比**27%増**となりました。2005年

1月1日から実施されている携帯電話事業者間料金精算がその主な理由です。仮に、この通信料金精算が2004年度に実施されていたとしたら、正味の通信事業売上高の伸び率は**同4%**になっていたでしょう。

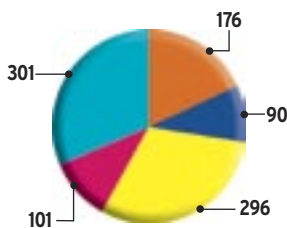
**ブイグ・テレコムは過去10年間の事業展開を経てユーザー数を800万人の大台に乗せました**(うち68.4%はポストペイド加入契約者)。iモード™のユーザーは140万人に上り、そのうちの10万人は高速大容量通信サービスの利用者です。大好評の同サービスは、EDGEブロードバンドの全国カバーにより国民の90%以上が利用できるようになっています。

単位100万ユーロ IFRS基準

## 売上高

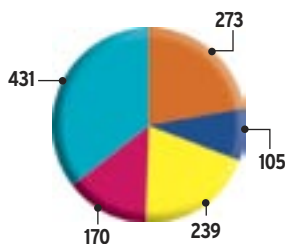


## 純利益<sup>(1)</sup>



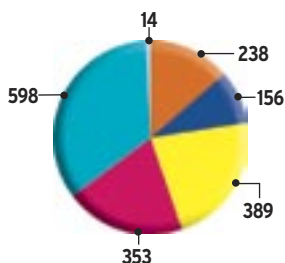
(1) ホールディングカンパニー等の他の純損益は1億3,200万ユーロの赤字

## フリーキャッシュフロー<sup>(2)</sup>

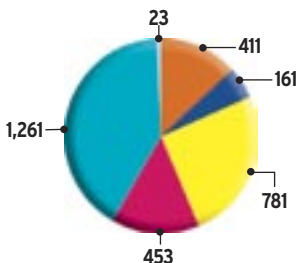


(2) ホールディングカンパニー等のフリーキャッシュフローは1億1,400万ユーロの赤字

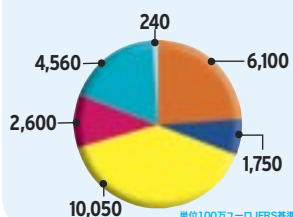
## 営業利益



## キャッシュフロー



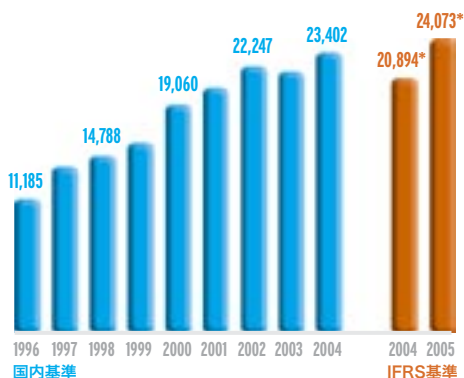
**2006年度目標**  
**売上高**  
**253億ユーロ (5%増)**  
 うち国外分  
**74億ユーロ (4%増)**



単位100万ユーロ IFRS基準

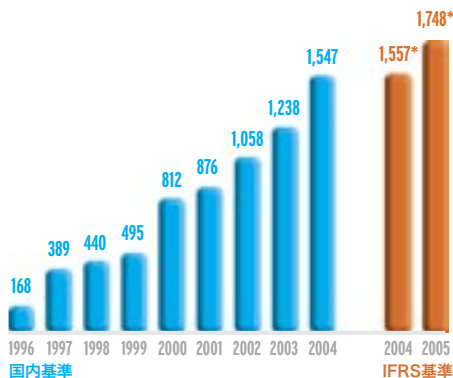
# 過去10年間の主要指標

売上高 (単位100万ユーロ)



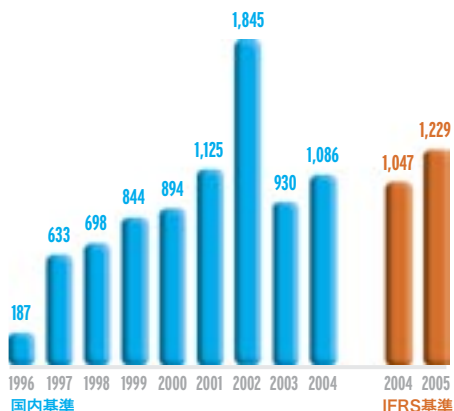
国内基準  
\* 2005年12月末現在繰渡予定のTPSを除く

営業利益 (単位100万ユーロ)



国内基準  
IFRS基準  
\* TPSを除く

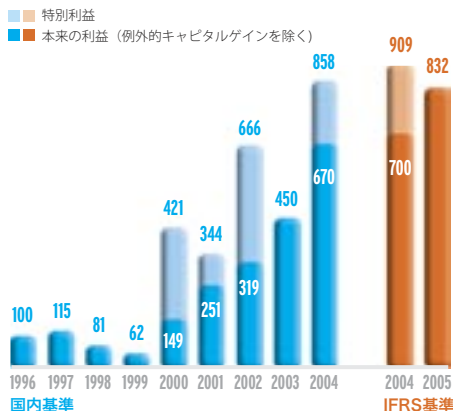
正味事業投資 (単位100万ユーロ)



国内基準

IFRS基準

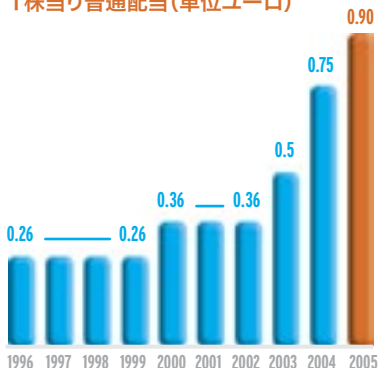
純利益 (単位100万ユーロ)



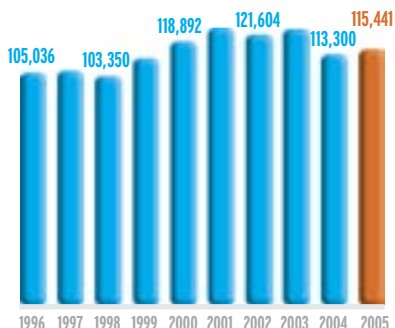
国内基準

IFRS基準

1株当たり普通配当 (単位ユーロ)



従業員数



**持続可能な発展こそは、ブイググループのお客様とスタッフの強い期待に応えるものです。ブイグでは、人に対する尊敬心に依拠する事業戦略と企業哲学の一環として長期的な視点からこれに取り組み、2005年度において各種のコミットメントを強化してきました。**

## その意味

持続可能な発展は、ブイググループの各事業分野の戦略にとって不可欠な要素になっています。ブイグは自らの企業文化や企業哲学に則り、社会や環境に対する責任を全うしつつ、お客様のお役に立ちたいと肝に銘じています。各事業分野では不断の改善を心がけ、果敢に新しいことに挑戦し、事業の戦略と展開に際して次の諸点を考慮に入れています。すなわち、環境と自然資源の保護、生活条件の改善、経験知の共有と最新テクノロジーの利用、各当事者による対話と意思決定参加などです。

## 「持続可能な発展」部

ブイグは責任ある企業として、これまで一度ならず率先して各種の試みを実施してきました。たとえば、自らの事業活動が環境に与える影響を抑え、スタッフの労働条件を改善し、各取引先に対しても進歩的取り組みへの賛同を呼びかけてきました。今や、これまでの努力を一層強めるとともに、中身をよく整理して効果を見極める必要があります。

## 人材スタッフ

2005年12月31日現在、ブイググループには11万5441人の従業員がいます。

### 企業文化

ブイグは、強力な企業文化に依拠して事業の発展を図っています。そこでは人材を大切にする姿勢が貫かれ、チームスピリット、責任感、尊敬心といった根本原理が礎になっています。

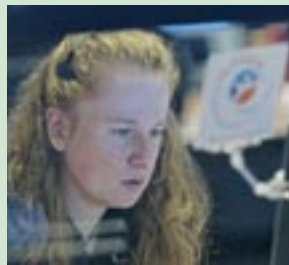
### ミノランジュ職人組合



上記の原理を永続的に具現化するものとしてミノランジュ(Minorange)職人組合があります。創業者フランシス・ブイグが建設業の社会的認知を高める目的で1963年に創立したもので、現在17の構成団体に分かれて906人の組合員が活動しています。この職人組合は建設現場において安全重視、職人作法、友愛心、及び愛社精神を称揚しています。たとえばコラス(Colas)の道路職人組合も同様の形態をとっています。

### 顧客アドバイザーサークル

ブイグ・テレコムは2005年度に顧客アドバイザーサークルを創設しました。その目的は、顧客アドバイザーの仕事に光を当て



てこの分野の有能な人材を認知することです。このサークルに属する90名は、カスタマーリレーション方針に関する最高の社内スポークスマンなのです。

### 新規採用

ブイググループは2005年度中に8000人を新規採用しました。2004年度はこれが6860人にとどまったので17%アップしたことになります。しかも新規採用者の77%は正社員でした。2006年度の業績見通しが良好なため今後も人材の拡充を図り、フランス国内の8000人を含めて1万4000人のリクルートを予定しています。



## 差別との闘い

ブイググループの各事業部門では「差別反対と平等のための高等機関(HALDE)」(会長ルー・シュバイツァー)と協議しながら、あらゆる形の差別の防止策をグループ内で強化するための具体的方法を探るべく検討開始しました。マルタン・ブイグ会長も各種説明会の場において、グループ320名の主要幹部たちにこの問題への注意を促しました。

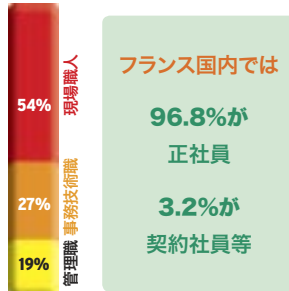


## 補完的年金制度

ブイググループは福利政策をさらに改善し従業員の退職後の収入減に対処するため、2006年1月以降、国内のグループ企業で働く従業員に対して「団体退職金積立プラン」(Perco)による補完的退職金積立制度を勧めています。そして、会社側から年間1000ユーロを上限として積立金の20%~50%の奨励金補助を実施しています。

11万5441人(2005年12月31日現在)

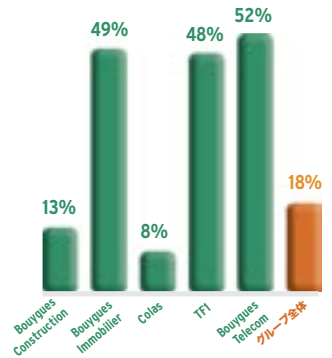
## 従業員職位



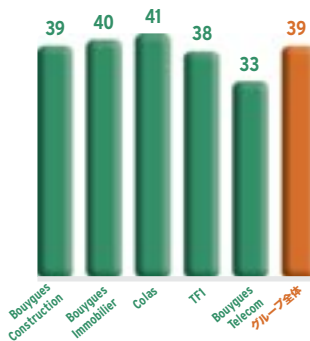
フランス国内では

96.8%が  
正社員  
3.2%が  
契約社員等

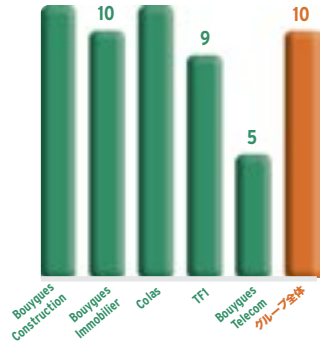
## 国内事業部門別の女性従業員



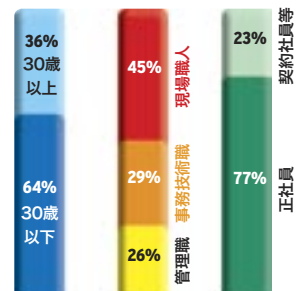
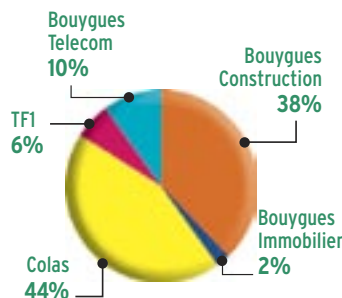
## 国内の平均年齢 39歳



## 国内の平均勤続年数 10年



## 2005年度は国内で8000人を新規採用



## 建設関連ハイライト

そこで、ブイグ本社CEO代行のオリヴィエ・ブイグが、持続可能な発展の方策をコーディネートする仕事を司ることになりました。こうして、新たに「持続可能な発展」部が創設されたのです。この部の主たる任務は、各事業部門間で当該ベストプラクティスを共有できるように支援することです。

### 意見交換の場

ブイグの5事業部門と本社の代表からなる専門委員会が2005年11月に初めて開催されました。この専門委員会では年に2~3回、持続可能な発展に係わる懸案事項ならびに各事業部門のアクションを検討します。また、持続可能な発展に関して各方面からブイグに寄せられた好意的及び批判的フィードバックも吟味します。一方、各事業分野のQSE(クオリティ・安全・環境)担当者で構成されるQSE委員会が同時並行して開かれます。そこでは、グループ内に設置されたリスク防止システムについて意見交換するほか、新しいマネジメント方法についても議論します。

### 倫理観と尊敬心

人間重視の姿勢がブイグの企業文化のバックボーンです。「ブイグ企業哲学の発展及び尊敬心と業績」に関するセミナーでは、倫理観と尊敬心に関してスタッフどうしが採るべき行動規範が勧告されます。さらに、「社会的責任と環境責任」ユニットが2006年度中に導入されることになっています。

### Bouygues Construction

- **ブイグ・コンストラクション**は技能訓練制度の認知を高めるべく、2005年11月に政府と憲章を締結しました。2005年度中は、国内の各子会社において135名の若い研修生が技能訓練を受けました。当社がヴェルサイユ商工会議所と提携して1997年に設立した「ギュスターブ・エッフェル技能訓練センター」では、要件を満たした若者に対して技能資格証明書を授与しています。



- **400人の生徒がいるタイのバンナムケン(Baan Nam Khen)学校**は2004年末の大津波で壊滅しましたが、その後ブイグ・パティマン・インターナショナル(Bouygues Bâtiment International)の子会社、ブイグ・タイ(Bouygues Thai)によって、たった9カ月間という記録的なスピードで再建されました。再建資金はミノランジュ職人組合のバックアップにより、ブイグ・コンストラクション、ブイグ本社、及びコラスが共同負担しました。



- **建設現場におけるQSEプランの全般的導入**がブイグ・コンストラクションの関連会社によって推進されています。エネルギー節約、廃棄物管理、近隣関係処理などが同プランの対象になっています。たとえば、新建設現場の全てがQSEプランを導入してい



るパリ周辺のイールドフランス地方では、審査登録機関AFAQにより現実的・実用的・経済的構想としての認証を受けました。

- **地域社会との地道な話し合い**がブイグ・コンストラクションの現場サイドで推進されています。たとえば高速道路A28の建設現場では、道路周辺地域住民との間で6カ月間に90回以上の話し合いの場が持たれました。またロンドンでは、四半期ごとのニュースレターや度重なる会合を通じ



て、イギリス内務省工事の進捗状況を周辺住民に逐一お知らせしました。

## Bouygues Immobilier

- 障害者への寄付を募るチャリティテレビ番組「テレトン(Téléthon)2005」の期間中、ブイグ・イモビリエは事業パートナーと一緒に、フランス筋障害協会(AFM)のために26万4000ユーロの募金を集めました。これにより、同社はフランス第4位の献金企業となったのです。また、同社のスタッフはツール・ド・フランス(Tour de France)にも参加して募金を集めました。

- ブイグ・イモビリエは2004年



度に打ち出した「アジュール・ヴェール」(AgirVert®)「環境に優しく行動する」という新コンセプトを引き続き唱導しました。環境を害さないための各種実践を普及させるとともに、「質の高い環境」(HQE®)憲章の基準に従って、建設活動がエコロジーに及ぼす影響を評価するためのガイドブックを作成しました。

- ブイグ・イモビリエは2005年度に新たな購買方針を設けて、クオリティと信頼性の基準に従って適格下請先をリストアップしました。これを通じて下請先との意思疎通を図り、下請先が長期的な改善プランに則って前進できるようにバックアップします。

- ブイグ・イモビリエは開発案件ごとに地域住民に対して広報キャンペーンを実施しています。たとえば2005年度は、パリ周辺のブル・ラ・レーヌ(Bourg-la-Reine)のプロジェクトに反対していた住民団体と協議しました。地域住民らは樹齢100年の銅ブナの木が切られることに反対だったので、そこで、当社は市に対して新たな開発計画を提示することにしました。これは「銅ブナ」プロジェクトと命名されたのです。

## Colas

- 学歴や出身がさまざまな5200人の従業員を2005年度に新規採用した結果、スタッフ総数は2004年度に比べて40%増になりました。こうした大規模な人材投資は、当社の将来に対する自信が本物であることを示しているのです。
- コラスは2005年度に「ヴェジェコル」(Vegecol)を60カ所以上



の現場で使いました。2004年度には4カ所に過ぎなかったので大幅な増加になりました。「ヴェジェコル」は植物油性結合剤と天然樹脂でできたアスファルト代替物です。コラスの研究開発チームが開発したもので、完全に再利用が可



能な原材料を使っています。これによって消費エネルギーを節約できるばかりでなく、温室効果ガスの排出を少なくできるのです。

- コラスはリヨン都市圏中心部のミオンにある80ヘクタールの生産拠点をリニューアルしました。ISO 14001と 9001を取得した施設には、周辺住民の要望に応えるために防護壁を設けて資材ストックの屋外放置を止めました。ここでは骨材、コンクリート、道路舗装剤、再利用資材などを1400トン毎時の生産能力があって、地元の需要の10%を賄うことができるのです。
- コラス・サークル(Colas Circle)は2005年度に知識人やオピニオンリーダーを招いて好きなテーマで講演してもらいました。たとえば、アカデミー・フランセーズ会員のミシェル・セール(Michel Serres)氏や、フランス国立科学研究中心(CNRS)のカトリーヌ・ヴィートル・ド・ヴェンデン(Catherine Wihtol de Wenden)氏です(同氏は労働移動をテーマにされました)。コラスはさまざまな社会問題に関する理解を深めるため、外部の有識者との意見交換の場を積極的に設けるようにしています。

## 通信&メディア関連ハイライト

### フランス・ブイグ企業財団

2005年度に設立されたフランス・ブイグ企業財団は、将来有望な高卒者がさらなる高等教育を受けられるように支援するものです。ブイグのスタッフの1人が資格者の後見人になり、年1500~8000ユーロの奨学金が4~6年間支給されます。2005年度は17名が奨学生に選ばれましたが、今後は毎年30名程度が選別されることになっています。これはブイググループ全体にまたがる初めてのメセナ活動です。

### 従業員持株制度

2万5000人近くのスタッフは「ブイグ・コンフィアンス3(Bouygues Confiance3)」に応募しました。これは、フランス国内のブイググループ企業の従業員に対する割当増資スキームで、1999年の「ブイグ・コンフィアンス」、2001年の「ブイグ・コンフィアンス2」に続いて3度目になります。ブイグのスタッフは、会社側の奨励金補助を得て1990年に設置された株式投資企業内貯蓄制度をいつでも利用できるようになっています。「ブイグ・コンフィアンス3」を実施した結果、従業員の持株比率は全体の13.3%となり、その議決権比率は同17.5%に達しました。各種の従業員投資信託を全部合計するとブイグの第2位株主に相当します。ブイグは従業員の資本参加比率の点で、CAC40種フランス企業銘柄中トップの座を誇っているのです。

### TF1

- **TF1は持続的な発展のテーマチャンネル「ウスアイヤ(Ushuaia)TV」を2005年度にスタートさせました。** 同局では①視聴者の関心を高め、②地球を理解し、③地球を大切にするという3つの基本方針の元で番組編成が行われています。



- **TF1とウスアイヤTVは「地球チャレンジ」を応援しています。** この「地球チャレンジ」はニコラ・ユロ財団とフ

ランス環境庁(ADEME)がスタートさせたもので、日常の基本行動を通じて環境を守っていかうと呼びかけています。TF1では向こう3年間、天気予報の時間に週に1回は「地球チャレンジ」への賛同者数カウンターの画面表示することになっています。

- **TF1は2005年1月27日、アウシュビッツ - ビルケナウ強制収容所の解放60周年の式典を全世界に向けて生放送しました。** 元収容者の証言を配したこのイベントはホロコースト



## ブイググループの企業哲学

- **人間**こそは事業の第一の要です。
- **お客様**あつての事業であり顧客満足が唯一の目標です。
- **クオリティ**は競争力のカギです。
- **創造性**を発揮することによってお客様に一味違うものをご提供でき、最高のコストパフォーマンスで役に立つソリューションをお届けできるのです。
- **技術イノベーション**はコスト構造と製品性能の改善を通じて事業を成功に導くのです。
- **尊重心**(自分と他人と環境を大切にしたい気持ちは人々の日常行動の質を高めるものです)。
- **昇進**は各人の実績評価に基づきます。
- **教育**によって人の知識の幅を広げられるだけでなく職業生活を充実させることができます。
- **若者**はいろいろな可能性を秘めており明日の企業の原動力になるのです。
- **挑戦**から進歩が生まれるのであり、挑戦者として振舞うことでリーダーの地位を維持できるのです。
- **人の姿勢**は企業が持つ単なる技術・経済的力よりも強力なテコになるのです。

の犠牲者に対する鎮魂の場になりました。

- ・TF1は2005年11月に「障害者雇用週間」に参加しました。TF1は他の大手フランス企業とともに、障害を持つ学生の雇用を促進する非営利団体「トランプラン(Tremplin)」の会員になっており、自社でも30名ほどの障害者を雇用しています。

## Bouygues Telecom

- ・再活用可能エネルギーを使って通信拠点に電力供給する2つの方式が南西部で試験されました。1つは風力発電と太陽発電との組み合わせで、もう1つはエア・リキッド (Air Liquide) 社との提携による燃料電池の利用です。この種のものとしては世界初の試みでありフラ



ンス環境庁 (ADEME) から表彰されました。

- ・ブイグ・テレコムは低労働コスト諸国における社会監査をスタートさせました。とりわけ中国や東欧諸国がその対象になります。当該国の下請け業者がきちんとした労働条件を守りながら、販促用のアクセサリーや製品を作っているかどうかを確認するのです。

- ・使用済み携帯電話の回収システムが作られました。まだ使える電話機は整備したうえで新興諸国に販売して、恵まれない人たちも携帯電話が使えるようになります。使えなくなった電話機のほうは解体して資材リサイクルに供します。

- ・ブイグ・テレコムはフランス中部ブルジュでの顧客関係センター建設に向けて「質の高い環境」(HQE®)の各種基準を絞り込みました。この結果、エネルギーと廃棄物管理、顧客アドバイザーのための視聴覚設備、さらに各職場の整備などについて詳細な目標が設定されました。

## 研究開発費

2005年度は1億3700万ユーロ



## イノベーションと研究開発

ブイググループの研究開発のほとんどは各事業分野に分散して行われています。研究開発担当者が事業分野別の課題に対応した取り組みができるようにするためです。ただし、ブイグ本社の専門機関である「e-Lab」は、デジタル化の進展にグループ全体を適応させる役割を果たしています。また、担当スタッフ全員を対象とするイノベーション部門が創設されました。

単なる技術のレベルを超えて、あらゆる事業分野にイノベーション文化が広がってきています。この点は、2005年にブイグ・コンストラクションが初めて催したイノベーション競技会の対象分野の広さが物語っています。そこでは技術、工事、営業、情報、管理、財務、法務、人事など多岐にわたり、1000人のスタッフによる330以上のエントリーがありました。受賞作品の中では、ETDEが開発した双方向ターミナルが特に話題になりました。これを使えば、コンピュータを持っていない現場従業員でもインターネットやイントラネットにアクセスできるようなるからです。

ブイグ・テレコムが催した第3回イノベーションフォーラムでは300のプロジェクトの中から14が選ばれました。一例を挙げれば、A4サイズの手紙よりも小さなフラット型ラジオアンテナが、環境を害さない特性を持っていることから注目を浴びました。

# 総合建設業の大手

**ブイグ・コンストラクションは建築工事、土木工事、電気工事、及びメンテナンスに従事しています。工事プロジェクトの企画から施工とメンテナンスまでノウハウを展開しています。**

## フランス国内の活動

2005年度は、パリ周辺と地方の両方で大きく事業が拡大して前年度比11%増の売上高を記録しました。建築工事は、不動産開発関連を中心として高付加価値をアピールする営業戦略が奏功しました。土木工事はのうは、高速道路A28やパリ地方グレイジョンの下水処理工場を手掛けたおかげで2004年度並の高水準を維持することができました。

## 国外の活動

西ヨーロッパでは、ブイグ・コンストラクションは主としてイギリス、スイス、スペインに進出しています。西ヨーロッパの事業活動は総合的には横ばいでしたが、スイスでは大きく伸び前年度比15%増の売上高を記録しました。イギリスでは子会社のBouygues UKが病院、学校、公共施設などを既に手掛けていますが、PFI(プライベート・ファイナンス・イニシアチブ)方式による公営住宅への進出も目指しています。

東ヨーロッパでは、ハンガリーの高速道路M5、スロバキアのルノー工場といったインフラ工事のおかげで堅調を維持しました。最近ではロシアが大きく伸びています。

アジア太平洋地域では、韓国とシンガポールが伸びる一方で香港での活動が高水準を保っています。中央アメリカ・カリブ地域では大きな営業上の成功を収め、インフラやホテル建設における経験やノウハウを生かすことができました。アフリカ地域での活動は横ばいでした。

## 電気工事及びメンテナンス

ETDEは前年度比39%増と大きく売上高を伸ばしました。フランス国内では、新たに10の企業買収を実施してスキルの幅を広げて地理的力パワーを強める一方、着実に内部成長も遂げました。イギリスではDavid WebsterとICELの2社を買収し、PFI契約の形で初めて街灯工事契約を獲得しました。



モロッコのタンジール港

## ハイライト

### 新たな事業認可

- ・高速道路A41 (5億ユーロ)。
- ・キプロス空港 (5億ユーロ)。
- ・南アフリカのプレトリア・ヨハネスブルグ間鉄道路線“Gautrain”プロジェクト (5億ユーロ)。

### 主な新規受注

- ・フランスのラ・デファンスタワー(9700ユーロ)。
- ・フランスのサンズ所在ルノー物流基地 (7700ユーロ)。
- ・フィンランドのオルキルオト欧州加圧水型原子炉(EPR)原子力発電所 (1億7000万ユーロ)。
- ・トリニダード・トバゴのホテル&オフィス複合施設 (1億6500万ユーロ)。

### 進行中の工事

- ・香港の馬落洲(Lok Ma Chau)トンネル (2億9000万ユーロ)。
- ・モロッコのタンジール港 (1億7000万ユーロ)。

### 引渡し工事

- ・高速道路A28 (6億5800万ユーロ)。
- ・香港の展示センター (2億4500万ユーロ)。
- ・イギリス内務省 (3億2500万ユーロ)。

2005年度売上高  
61億3100万ユーロ  
(11%増)

営業利益  
2億3800万ユーロ  
(42%増)

連結純利益  
1億7500万ユーロ  
(25%増)

従業員数  
3万8500人

2006年度目標売上高  
64億5000万ユーロ  
(5%増)

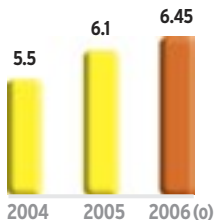
IFRS



## > 2005年度は申し分ない 営業並びに財務実績

### 売上高

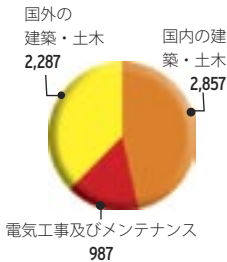
単位 10億ユーロ



(o)目標値

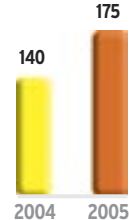
### 分野別売上高

単位 100万ユーロ



### 純利益

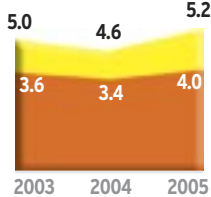
単位 100万ユーロ



### 受注残高

単位 10億ユーロ

■うちフランスおよびヨーロッパ



IFRS

## 2006年度の見通し

2005年度末の受注残高は52億ユーロと前年度末に比べて13%も増えました。ブイグ・コンストラクションは次の4つを軸にして成長戦略を維持していきます。

- **電気工事及びメンテナンス** 国際展開のウエートがさらに増大していく。
- **官民パートナーシップ** イギリスのブルームフィールド病院や、フランスのカーン病院のような大型プロジェクトが正式受注される見込み。
- **不動産開発** AdValys(資産管理会社)や、Challenger Investissement(官民提携投資ファンド)といった新ツールが創出されスケールアップされる。
- **インフラ交通事業認可** 2005年に獲得した3つの事業認可契約(フランスの高速道路A41、キプロス空港、及び南アフリカのGautrainプロジェクト)が発効して2006年度の工事案件のスタートとなる。

### 連結貸借対照表(12月31日現在)

資産の部(単位100万ユーロ IFRS基準)	2004	2005
・有形及び無形固定資産	296	265
・営業権	145	175
・非流動金融資産	170	218
<b>非流動資産</b>	<b>611</b>	<b>658</b>
・各種流動資産	1,972	2,255
・現金及び現金同等物	1,773	2,074
・金融商品(債券関連)	-	-
<b>流動資産</b>	<b>3,745</b>	<b>4,329</b>
<b>資産合計</b>	<b>4,356</b>	<b>4,987</b>
負債及び資本の部(単位100万ユーロ IFRS基準)	2004	2005
・連結自己資本	302	414
・少数株主持分	3	4
<b>自己資本等合計</b>	<b>305</b>	<b>418</b>
・長期金融債務	134	122
・非流動性引当金	437	519
・その他非流動債務	1	1
<b>非流動負債</b>	<b>572</b>	<b>642</b>
・1年以内金融債務	24	4
・各種流動債務	3,363	3,849
・短期銀行借入等	92	74
・金融商品(債券関連)	-	-
<b>流動負債</b>	<b>3,479</b>	<b>3,927</b>
<b>負債及び資本合計</b>	<b>4,356</b>	<b>4,987</b>
<b>正味金融債務</b>	<b>(1,523)</b>	<b>(1,874)</b>

### 連結損益計算書

(単位100万ユーロ IFRS基準)	2004	2005
<b>売上高</b>	<b>5,512</b>	<b>6,131</b>
<b>調整前営業利益</b>	<b>168</b>	<b>249</b>
・その他営業収支	-	(11)
<b>営業利益</b>	<b>168</b>	<b>238</b>
・利息等収支	26	32
・その他金融収支	2	1
・所得税	(59)	(114)
・関連会社純損益分	3	19
<b>調整前純利益</b>	<b>140</b>	<b>176</b>
・中断又は譲渡事業損益	-	-
<b>少数株主持分控除前純利益</b>	<b>140</b>	<b>176</b>
・少数株主持分	-	1
<b>連結当期純利益</b>	<b>140</b>	<b>175</b>



パリのオスマン通り96 番地

# 不動産開発における

**ブイグ・イモビリエはフランス国内に32の支店、ヨーロッパに7つの拠点を持っています。このネットワークを生かして住宅、オフィスビル、及びショッピングセンターの開発プロジェクトを企画し実現しています。**

申し分のない財務構成と前年度比41%増の純利益を武器にして、ブイグ・イモビリエは2005年度にマーケットシェアをさらに増やすことができました。

## 住宅関連

ブイグ・イモビリエは低金利、優遇税制、及び強い賃貸住宅需要に支えられて住宅関連で優れた実績を挙げました。2005年度の住宅予約販売戸数は8208戸(うち474戸は国外ヨーロッパ)で前年度比21%増となりました。フランス国内を見るとパリ周辺が同8%増、地方は同24%増、全体では同17%増でした。特にイールドフランスの大首都圏、PACA(プロバンス、アルプス、コートダジュール)地方、及び大西洋側の三日月地帯で力強い住宅需要がみられました。ブイグ・イモビリエはアミアン、グルノーブル、ロリアンの3カ所に新たに支店をオープンさせて国内ネットワークを強化しました。この結果、住宅関連の売上高は前年度比21%増を記録しました。

## オフィス・商業施設関連

オフィス・商業施設市場が伸び悩む中にもかかわらず、ブイグ・イモビリエは新設オフィス関連でリーダーとしての地位を強化し、合計15万7000平方メートルのオフィス、商業施設、ホテルを販売することができました(うち5万2000平方メートルは国外ヨーロッパ)。

## 国外ヨーロッパ事業

ブイグ・イモビリエはドイツ、ベルギー、スペイン、ポーランド、ポルトガルの5カ国に拠点を設けて事業展開しており、2005年度は総売上高の10.8%をこの国外ヨーロッパ事業が占めました。

## ハイライト

### 住宅関連

- 8200戸の住宅予約販売(前年度比21%増)。
- 地方で大きく躍進。
- ヨーロッパで住宅事業が進展。

### オフィス・商業施設関連

- 総面積15万7000平方メートル分の商業施設を販売。その内訳としてはパリ周辺が5万7000平方メートル(うちイッシー・レ・ムリノ市が4万6000平方メートル)、リヨンやディジョンを中心とする地方が4万8000平方メートル、ポルトガルやスペインなどのヨーロッパ諸国が5万2000平方メートル。

- パリのオスマン通り96番地で総面積2万3000平方メートルの改修オフィス引渡し。

### 開発事業

- イッシー・レ・ムリノ市でオフィス開発用地8万7000平方メートルの買収コミットメント。

**2005年度売上高**  
15億5700万ユーロ  
(20%増)

**営業利益**  
1億5600万ユーロ  
(31%増)

**連結純利益**  
9000万ユーロ  
(41%増)

**従業員数**  
1000人

**2006年度目標売上高**  
17億5000万ユーロ  
(12%増)

IFRS



- ▶ 2005年度は住宅関連が新たな成長
- ▶ 利益が大幅に増大

## 売上高

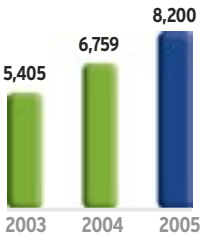
単位 10億ユーロ



(o) 目標値

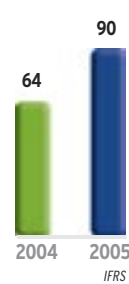
## 住宅

予約販売戸数



## 純利益

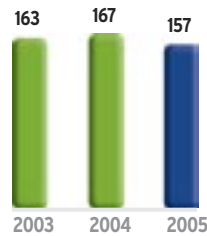
単位 100万ユーロ



IFRS

## 商業ビル

予約販売 (単位 1000m<sup>2</sup>)



## 2006年度の見通し

ブイグ・イモビリエはフランス国内での地位を強化するとともに、国外ヨーロッパにおいても有力企業になっていくつもりです。2006年度は次のような戦略の柱を考えています。

- **ダイナミックではあるが慎重な事業発展**を推進する。その際、地方を中心に住宅関連で躍進し、オフィスビル関連のリスク管理を図り、さらにはイペリア半島やポーランドなどの国外ヨーロッパに注力する。
- **高収益性**を維持する。
- 持続可能な債務管理を通じて**しっかりした財務体質**を保持する。

2005年度に事業の活況が観察されたことから、2006年度の売上高もかなりの上伸が予想されます。市場の伸びが横ばいになりつつありにもかかわらず住宅の予約販売がさらに増加する一方、商業ビル事業は緩やかながら回復の兆しが見えそうです。

## 連結貸借対照表(12月31日現在)

資産の部(単位100万ユーロ IFRS基準)	2004	2005
・有形及び無形固定資産	45	47
・営業権	-	-
・非流動金融資産	30	34
<b>非流動資産</b>	<b>75</b>	<b>81</b>
・各種流動資産	826	957
・現金及び現金同等物	313	237
・金融商品(債券関連)	-	-
<b>流動資産</b>	<b>1,139</b>	<b>1,194</b>
<b>資産合計</b>	<b>1,214</b>	<b>1,275</b>
負債及び資本の部(単位100万ユーロ IFRS基準)		
・連結自己資本	238	284
・少数株主持分	10	1
<b>自己資本等合計</b>	<b>248</b>	<b>285</b>
・長期金融債務	44	72
・非流動性引当金	66	79
・その他非流動債務	8	5
<b>非流動負債</b>	<b>118</b>	<b>156</b>
・1年以内金融債務	15	14
・各種流動債務	828	819
・短期銀行借入等	3	1
・金融商品(債券関連)	2	-
<b>流動負債</b>	<b>848</b>	<b>834</b>
<b>負債及び資本合計</b>	<b>1,214</b>	<b>1,275</b>
<b>正味金融債務</b>	<b>(249)</b>	<b>(150)</b>

## 連結損益計算書

(単位100万ユーロ IFRS基準)	2004	2005
<b>売上高</b>	<b>1,295</b>	<b>1,557</b>
<b>調整前営業利益</b>	<b>119</b>	<b>156</b>
・その他営業収支	-	-
<b>営業利益</b>	<b>119</b>	<b>156</b>
・利息等収支	-	1
・その他金融収支	(11)	(12)
・所得税	(40)	(53)
・関連会社純損益分	-	-
<b>調整前純利益</b>	<b>68</b>	<b>92</b>
・中断又は譲渡事業損益	-	-
<b>少数株主持分控除前純利益</b>	<b>68</b>	<b>92</b>
・少数株主持分	4	2
<b>連結当期純利益</b>	<b>64</b>	<b>90</b>

# 世界ナンバーワンの

コラスは道路及び交通インフラのあらゆる分野に係っており、採石場や舗装剤センターから乳剤・結合剤工場に至るまで事業統合を図っています。

40カ国以上に事業拠点を築いているコラスは、2005年度にはフランス国内外で非常に大きく売上高を伸ばしました(前年度比18.9%増)。有望な市場環境、気候的な好条件、企業買収による外部成長が貢献したのです。この結果、原油などの原材料価格の大幅高騰にもかかわらず、少数株主持分控除前利益は3億1200万ユーロと前年度比23%増になりました。

## 国内活動

フランス国内事業の売上高は前年度比11.2%増になりました。地方自治体や民間部門の投資活動、公共交通プロジェクト(市外電車や東ヨーロッパ高速線など)、及び都市開発プロジェクトなどが盛んだったことから道路工事、鉄道工事、防水工事案件が増えたのです。交通安全・道路標識の分野については、Prosign及びVeluvineの2社を買収したことによって欧州におけるロードペイントの生産塗布を増やしました。パイプライン工事と配管工事のほうは横ばいを維持しました。

## 国外活動

国外事業の売上高は主要進出地域全体で前年度比29.8%増と大きく上昇しました(増加分の40%は企業買収の結果)。地域別に見ると国外ヨーロッパでは同45%増、北米では同20%増、アフリカ・アジア・インド洋地域では同15%増となりました。

## 資材生産

コラスは2005年度に1億110万トンの骨材(20~25年分のストック)、5380万トンの道路舗装剤、150万トンの乳剤と結合剤(世界最大の生産量)、及び2170万平方メートルの防水膜を生産しました。



A26高速道路工事

## ハイライト

### 国内の主な工事

A4、A25、A63、A7、及びA89の各高速道路の補修工事。モー南西部の迂回路工事。マルセイユ、モンペリエ、パリなどの市外電車軌道工事。リヨンの劇場Salle 3000の屋根及び外装工事。東ヨーロッパ高速線(LGV)路線施設工事。

### 国外の主な工事

ベルギーのアントワープ環状道路の第2期補修工事。英国ポーツマスにおける初年度PFI運営。ハンガリーでM5とM3高速道路の区域建設工事。米国バージニア州ノーフォーク港のプラットフォーム工事完成。マダガスカルのRN6国道300キロメートル分の建設補修工事。レユニオン島のタマラン道路区域工事。仏領ギアナのクーラーのソユーズ発射台土木工事。

2005年度売上高  
95億4000万ユーロ  
(19%増)

営業利益  
3億9000万ユーロ  
(35%増)

連結純利益  
3億700万ユーロ  
(22%増)

従業員数  
5万7800人

2006年度目標売上高  
101億ユーロ  
(6%増)

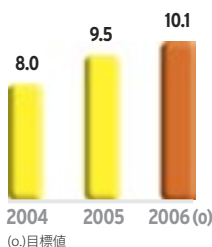
IFRS



## > 2005年度は売上と利益が大幅に上昇

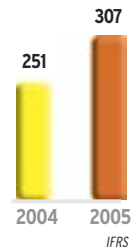
### 売上高

単位 10億ユーロ

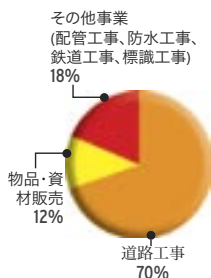


### 純利益

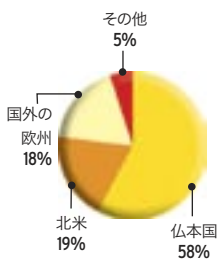
単位 100万ユーロ



### 事業内容別売上高



### 地域別売上高



## 2006年度の見通し

2005年度第4四半期の工事は堅調推移しましたが、それでも前年同期比18%増の**受注残**がありました。

現在進行中又は検討中の工事案件に鑑みて、2006年度第1四半期は国内外において大きく事業規模が伸びることが予想されます。また、新たな**企業買収**計画も絞り込まれており、そのうちの幾つかは2006年度中に実現される可能性があります。

当面の各種プロジェクトがもっと具体化し、2006年度第2四半期の業界見通しが確かに良好であるなら、コラスは**採算性が取れる事業展開戦略において新たなステップ**を踏み出すことになるはずで。その場合、事業拠点ネットワーク、生産活動、新たな官民パートナーシップ契約に関する経験ノウハウ、5万7800人の従業員、技術力、堅固な財務体質が拠り所になるのです。

### 連結貸借対照表(12月31日現在)

資産の部(単位100万ユーロ IFRS基準)	2004	2005
・有形及び無形固定資産	1,438	1,687
・営業権	170	205
・非流動金融資産	394	428
<b>非流動資産</b>	<b>2,002</b>	<b>2,320</b>
・各種流動資産	2,415	2,960
・現金及び現金同等物	635	661
・金融商品 (債券関連)	5	9
<b>流動資産</b>	<b>3,055</b>	<b>3,630</b>
<b>資産合計</b>	<b>5,057</b>	<b>5,950</b>
<b>負債及び資本の部(単位100万ユーロ IFRS基準)</b>		
・連結自己資本	1,205	1,451
・少数株主持分	25	27
<b>自己資本等合計</b>	<b>1,230</b>	<b>1,478</b>
・長期金融債務	89	108
・非流動性引当金	413	471
・その他非流動債務	46	59
<b>非流動負債</b>	<b>548</b>	<b>638</b>
・1年以内金融債務	50	38
・各種流動債務	3,151	3,687
・短期銀行借入等	74	100
・金融商品 (債券関連)	4	9
<b>流動負債</b>	<b>3,279</b>	<b>3,834</b>
<b>負債及び資本合計</b>	<b>5,057</b>	<b>5,950</b>
<b>正味金融債務</b>	<b>(423)</b>	<b>(415)</b>

### 連結損益計算書

(単位100万ユーロ IFRS基準)	2004	2005
<b>売上高</b>	<b>8,024</b>	<b>9,540</b>
<b>調整前営業利益</b>	<b>289</b>	<b>422</b>
・その他営業収支	-	(32)
<b>営業利益</b>	<b>289</b>	<b>390</b>
・利息等収支	(7)	(10)
・その他金融収支	24	4
・所得税	(95)	(121)
・関連会社純損益分	42	49
<b>調整前純利益</b>	<b>253</b>	<b>312</b>
・中断又は譲渡事業損益	-	-
<b>少数株主持分控除前純利益</b>	<b>253</b>	<b>312</b>
・少数株主持分	2	5
<b>連結当期純利益</b>	<b>251</b>	<b>307</b>

# フランスのテレビ界を

TF1はフランスの有力総合テレビ局ですが補完的に事業の多角化も進めており、その活動範囲はテーマチャンネル、インターネット、映像等コンテンツ権、関連商品、有料テレビまで多岐に渡っています。

## テレビ放送

2005年度は、当年度視聴率ベスト100のうち97までをTF1の番組が占めました。これは1991年以來の最高の快挙です。一方、4歳以上のテレビ視聴者シェアは32.3%に達しました。前年度比0.5%増と、全テレビ局の中で最大の伸び率となったのです。番組の内訳を見ると、高視聴率を獲得した番組の半分以上はテレビドラマでした。お馴染みのヒーローの活躍もさることながら、新しい人気ドラマをお届けできたのが奏功しました。テレビ映画も引き続き多くの視聴者を動員し、特にLe Diner de cons (The Dinner Game)は1150万人が観ました。2005年度の特徴としてはアメリカのドラマシリーズがプライムタイプに登場したことでした。イベントがらみのバラエティー番組も好調で、番組編成上重要な位置を占めました。さらに、ニュース番組は2004年度以上に視聴者を集めました。

## 広告関係

食品関連企業の広告投資が前年度比9%も減少するなど、不景気の影響からTF1の広告収入は横ばいに終わりました。とは言え、テレビ広告のマーケットシェア54.4%を誇り、引き続き業界のリーダーの地位を保持しました。こうした中、フランスの各テーマ局の広告収入は前年度比16%増となりました。

## 多角化事業

多角化事業の売上高は前年度比1.9%増を記録しました(既存基準では3.8%増)。TF1 Internationalの売上高はロードショー映画配給が順調だったおかげで増加しました。Canal+グループとの統合が予定されているTPSは、厳しい競争にもかかわらず売上高を同6%伸ばしました。e-TF1はメディアポータルサイトの国内大手tf1.frの活況や、TF1のバラエティー番組と連動したAudiotel-SMS事業の好成績の恩恵に浴しました。



フランス対キプロスの試合

## ハイライト

- **12月** 有料衛星デジタル放送局TPSと有料放送最大手カナル・プリュス(Canal+)との統合計画発表。
- **10月** フランス対キプロスのサッカー試合を1330万人の視聴者がTF1で観戦。
- **夏季** 夏の新ドラマシリーズ「ドルメン(Dolmen)」の平均視聴者数が1200万人を記録。
- **7月** 衛星・ケーブルテレビ調査会社メディアカブサット(Mediacabsat)が2004年12月27日~2005年6月12日に実施したリサーチによると、TF1の6つの番組が視聴率トップ10にランクイン。
- **第1四半期** 子会社VisiowaveとStudios 107の譲渡。
- **6月** 2010年及び2014年サッカーW杯のフランス放映権獲得。
- **5月** TMCの株式40%を取得。
- **3月** ウスアイヤ(Ushuaia)TVをスタート。フランスの地上波デジタルテレビ(DTT)スタート。DTTについてTF1は2つの無料放送免許(TF1及びTMC)と4つの有料放送免許を取得。

**2005年度売上高  
25億900万ユーロ\***  
(横ばい)

\*TPSを除く

**営業利益  
3億5300万ユーロ\***  
(7%減)

\*TPSを除く

**連結純利益  
2億3600万ユーロ**  
(5%増)

**従業員数  
4100人**

**2006年度目標売上高  
26億2000万ユーロ**  
(4%増)

IFRS



- > 2005年度は業界一の視聴率上昇
- > 粗利益の改善

## 売上高\*

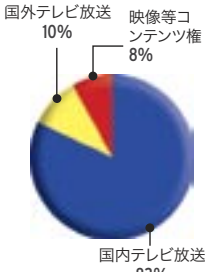
単位 10億ユーロ



\* TPSを除く

(a)目標値

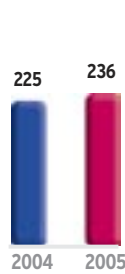
## 事業内容別売上高



\* TPSを除く

## 純利益

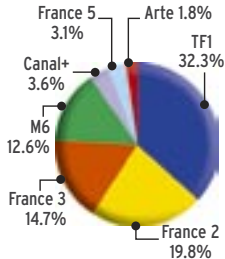
単位 100万ユーロ



IFRS

## 視聴者シェア

4歳以上の個人の場合



出所=メディアメトリ(Médiamétrie)

## 2006年度の見通し

TF1は次の各点から成る事業戦略の中で引き続き展開していきます。

- ・フランス国内の**番組制作**でトップの座を維持する。
- ・**ユーロスポーツ (Eurosport)** を伸ばしていく。
- ・**ニューテクノロジー**に対応する番組とサービスの新フォーマットを作る。

2006年度のTF1グループの売上高は前年度比約4%増を見込んでいます。サッカーW杯関連を除く番組編成コストは同約3%増となると思われます。

## 連結貸借対照表(12月31日現在)

資産の部(単位100万ユーロ IFRS基準)	2004	2005
・有形及び無形固定資産	333	332
・営業権	889	481
・非流動金融資産	108	118
<b>非流動資産</b>	<b>1,330</b>	<b>931</b>
・各種流動資産	1,771	1,787
・現金及び現金同等物	159	176
・金融商品(債券関連)	12	12
<b>流動資産</b>	<b>1,942</b>	<b>1,975</b>
・譲渡事業資産	-	564
<b>資産合計</b>	<b>3,272</b>	<b>3,470</b>
負債及び資本の部(単位100万ユーロ IFRS基準)		
・連結自己資本	975	1,051
・少数株主持分	1	(1)
<b>自己資本等合計</b>	<b>976</b>	<b>1,050</b>
・長期金融債務	524	513
・非流動性引当金	30	32
・その他非流動債務	63	49
<b>非流動負債</b>	<b>617</b>	<b>594</b>
・1年以内金融債務	32	26
・各種流動債務	1,623	1,450
・短期銀行借入等	17	-
・金融商品(債券関連)	7	-
<b>流動負債</b>	<b>1,679</b>	<b>1,476</b>
・譲渡事業負債	-	-
<b>負債及び資本合計</b>	<b>3,272</b>	<b>3,470</b>
<b>正味金融債務</b>	<b>409</b>	<b>351</b>

## 連結損益計算書

(単位100万ユーロ IFRS基準)	2004	2005
<b>売上高</b>	<b>2,501</b>	<b>2,509</b>
<b>調整前営業利益</b>	<b>381</b>	<b>339</b>
・その他営業収支	-	14
<b>営業利益</b>	<b>381</b>	<b>353</b>
・利息等収支	(17)	(13)
・その他金融収支	4	-
・所得税	(137)	(115)
・関連会社純損益分	(5)	(5)
<b>調整前純利益</b>	<b>226</b>	<b>220</b>
・中斷又は譲渡事業損益	(2)	14
<b>少数株主持分控除前純利益</b>	<b>224</b>	<b>234</b>
・少数株主持分	(1)	(2)
<b>連結当期純利益</b>	<b>225</b>	<b>236</b>

TPSは譲渡事業資産として計上。



i-mode™ Haut Débitのキャンペーン

ブイグ・テレコムは2005年度にブロードバンド時代への移行を遂げ、フランス国民の90%以上をカバーするEDGEネットワークにより、i-mode™ Haut Débit(ブロードバンドiモード)というフルセットのモバイルマルチメディアサービスを提供開始しています。

## 誰もがどこでも使えるブロードバンド

ブイグ・テレコムは2005年5月にEDGEネットワークを開通して、企業と事業者向けに、ブロードバンドデータ通信の各種定額制プランとユニバーサルメッセージサービスを開始しました。これらは、専用デジタルカードを装着したノートパソコンの他にPDAやスマートフォンなどでも利用することができます。2005年10月には、国民の90%までカバーする形で一般向けブロードバンドサービスを開始しました。そこでは次のような画期的な新i-mode™サービスを提供しています。すなわち無料無制限のメール交換、MSMメッセージャーなどのインスタントメッセージ利用、TPSの有料衛星デジタルテレビ放送、音楽ダウンロード、内容充実のi-mode™ポータルなどです。また、月額9.9ユーロのi-mode™ Haut Débit(ブロードバンドiモード)定額制プランも初めてスタートさせました。さらに、2種類のEDGE対応のi-mode™携帯端末も出ました(NEC製とサムスン製)。

## 掛け放題プラン

ブイグ・テレコムは、携帯電話通話利用を引き続き発展させるために各種定額制プランの内容を充実させました。具体的には次のとおりです。

- ・定額制プラン「エクスプレッション(Expression)」の期間限定特別キャンペーン。これにより、毎晩夜6時以降と土日の終日はフランス国内の固定電話向けに掛け放題になります。

- ・定額制プラン「エモーション (Emotion)」の初めての期間限定特別キャンペーン。これにより毎晩夜8時~0時までではフランス本土内の全固定及び携帯電話向けに、最初の3分間を超えた分について掛け放題になります。

- ・クリスマスの機会に、定額制プラン「エクスプレッション(Expression)」(最低利用時間を90分に設定)のキャンペーンを改めて行ったほか、掛け放題タイプの新プリペイドカードCarte Nomadを出しました。このカードは40分間の通話ができるうえに、毎晩夜8時~0時まででは全ての固定電話とブイグ・テレコムの携帯電話向けに掛け放題になります。

## ユニバーサルモバイル

ユニバーサルミュージックとタイアップした音楽配信「ユニバーサルモバイル(Universal Mobile)」は若者の間で大好評を博し、2005年度末には36万人のユーザーを数えました。2005年10月には対応型プリペイドカードを出してサービス内容をさらに拡充させました。

## ハイライト

- ・12月 ユーザー数が800万人の大台突破。競争評議会の決定(融合容疑で5800万ユーロの罰金処分)に対する不服申立の意向を発表。
- ・10月 フィリップ・モンタニエ氏をブイグ・テレコム会長兼CEOに任命。DVB-Hスタンダードによるモバイルデジタルテレビの試験開始。一般向けのi-mode™ Haut Débit(ブロードバンドiモード)サービス開始。「クラブ・ブイグ・テレコム(Club Bouygues Telecom)」という新ジョイントコンセプトの展開。
- ・8月 定額制プラン「エモーション(Emotion)」を開始。
- ・5月 EDGEネットワークを使った企業向けブロードバンドサービス開始(国民の85%をカバー)。
- ・1月 「ビル・アンド・キープ(bill & keep)」(課金して集金した料金をすべて集金した会社の収入にするシステム)を廃止して携帯電話事業者間精算方式を導入。定額制プラン「エクスプレッション(Expression)」開始。

2005年度売上高  
45億3700万ユーロ  
(24%増)\*

\*2004年度料金率による携帯電話事業者間精算分を含めると2%増

Ebitda / 通信事業売上高 31.8%  
(3.3ポイント増)

連結純利益  
3億5200万ユーロ  
(8%増)

従業員数  
7300人

2006年度目標売上高  
45億8000万ユーロ  
(1%増)

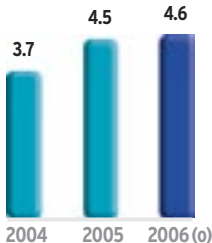
IFRS



## > i-mode™ Haut Débitサービス開始と 2005年度の利益増加

### 売上高

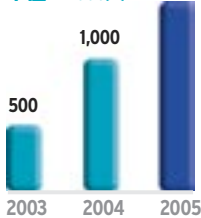
単位 10億ユーロ



(o)目標値

### iモード顧客数

単位 1000人



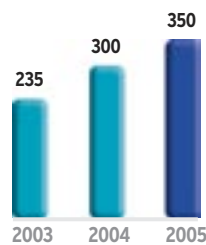
### 純利益

単位 100万ユーロ



IFRS

### iモードサイト数



### 2006年度の見通し

- ブイグ・テレコムは**画期的なサービスプラン**及び**ブロードバンドiモードの品質と多様性**を武器にして、今後もさらにユーザー数を増やしていくことを目指しています。ユニバーサルモバイルをモデルにしたパートナーシップが、各分野で実現することでサービスの幅がさらに広がっていく可能性があります。
  - 規制当局の命令により、2006年1月1日からコールターミネーション料金が24%ダウンになることから、売上高の伸びにかなりの影響が出てくるものと思われます。
  - 2006年度の通信事業正味売上高は前年度比1%増の42億8000万ユーロが見込まれます。
  - 傘下の販売ネットワークを強化する一環として、顧客対応をもっと良くするために店舗改装を漸次進めます。
- ブイグ・テレコムは高水準の**サービスクオリティ**を維持するために、カスタマーリレーションセンターにおける対応を引き続き改善していくように努める所存です。

### 連結貸借対照表(12月31日現在)

資産の部(単位100万ユーロ IFRS基準)	2004	2005
・有形及び無形固定資産	3,133	3,078
・営業権	12	12
・非流動金融資産	428	205
<b>非流動資産</b>	<b>3,573</b>	<b>3,295</b>
・各種流動資産	802	1,011
・現金及び現金同等物	15	5
・金融商品(債券関連)	12	-
<b>流動資産</b>	<b>829</b>	<b>1,016</b>
<b>資産合計</b>	<b>4,402</b>	<b>4,311</b>
負債及び資本の部(単位100万ユーロ IFRS基準)		
・連結自己資本	1,783	2,132
・少数株主持分	-	-
<b>自己資本等合計</b>	<b>1,783</b>	<b>2,132</b>
・長期金融債務	1,187	434
・非流動性引当金	30	54
・その他非流動債務	-	-
<b>非流動負債</b>	<b>1,217</b>	<b>488</b>
・1年以内金融債務	9	11
・各種流動債務	1,365	1,679
・短期銀行借入等	-	-
・金融商品(債券関連)	28	1
<b>流動負債</b>	<b>1,402</b>	<b>1,691</b>
<b>負債及び資本合計</b>	<b>4,402</b>	<b>4,311</b>
<b>正味金融債務</b>	<b>1,197</b>	<b>441</b>

### 連結損益計算書

(単位100万ユーロ IFRS基準)	2004	2005
<b>売上高</b>	<b>3,666</b>	<b>4,537</b>
<b>調整前営業利益</b>	<b>597</b>	<b>656</b>
・その他営業収支	-	(58)
<b>営業利益</b>	<b>597</b>	<b>598</b>
・利息等収支	(62)	(26)
・その他金融収支	(7)	-
・所得税	(196)	(220)
・関連会社純損益分	-	-
<b>調整前純利益</b>	<b>332</b>	<b>352</b>
・中断又は譲渡事業損益	-	-
<b>少数株主持分控除前純利益</b>	<b>332</b>	<b>352</b>
・少数株主持分	-	-
<b>連結当期純利益</b>	<b>332</b>	<b>352</b>

**Bouygues**

**Challenger**

1, avenue Eugène Freyssinet  
78061 St. Quentin-en-Yvelines Cedex  
France

Tel.: +33 1 30 60 23 11  
[www.bouygues.com](http://www.bouygues.com)

**Bouygues Construction**

**Challenger**

1, avenue Eugène Freyssinet  
78061 St. Quentin-en-Yvelines Cedex  
France

Tel.: +33 1 30 60 33 00  
[www.bouygues-construction.com](http://www.bouygues-construction.com)

**Bouygues Immobilier**

150, route de la Reine

92513 Boulogne-Billancourt Cedex  
France

Tel.: +33 1 55 38 25 25  
[www.bouygues-immobilier.com](http://www.bouygues-immobilier.com)

**Colas**

7, place René Clair

92653 Boulogne-Billancourt Cedex  
France

Tel.: +33 1 47 61 75 00  
[www.colas.fr](http://www.colas.fr)

**TF1**

1, quai du Point du Jour

92656 Boulogne-Billancourt Cedex  
France

Tel.: +33 1 41 41 12 34  
[www.tf1.fr](http://www.tf1.fr)

**Bouygues Telecom**

Arcs de Seine

20, quai du Point du Jour  
92640 Boulogne-Billancourt Cedex  
France

Tel.: +33 1 39 26 75 00  
[www.bouyguetelecom.fr](http://www.bouyguetelecom.fr)

**BOUYGUES**